

とうきょうすくわくプログラム活動報告書

1. 活動のテーマ

<テーマ>

「実践的食育」

<テーマの設定理由> (テーマに関する子どもの興味関心、園の特色 など)

園近隣に大きな公園があることや地域の方とのかかわりが深く、毎年ブルーベリー摘みやじゃがいも堀りなど食に触れる体験を多く取り入れている。園でも乳児クラスから野菜の栽培を積極的に行っている。また、栄養士と保育士、職員間の結びつきが強いため食育活動にも力を入れている。

2. 探究活動の実践

		対象クラス・対象人数						
	実施日	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	地域
①	2025.08.19					12	9	0
②								
③								
④								
⑤								

活動内容

保育園で野菜や植物を育てている土(堆肥)についての知識を深めていくことを目的に、【ベジリンク】を招いて、「堆肥に触れてみよう」という活動を行っていった。

導入として、植物が育つための条件(水・空気・温度・日光・土)についての話を聞いた。次に、1グラムの土を実際にケースの上から観察し、見た目や重さを感じられるようにしたところで、「1グラムの土に、何匹の虫がいるのか」クイズをした。100億匹もいることがわかった子どもたちは「すごい」と驚きの声をあげていた。

実際に土に触れていく場面では、虫メガネなども用意して土の中身や香りに注目してもらえるようにした。ここでは「堆肥にはどんなものが混ざられているのか」クイズをした。落花生の殻や、コーヒーの出がらし・昆布やわかめなどの廃棄される寸前のたくさんのものが土に混ざられているという話を聞いた。話を聞いてからもう一度堆肥に触れていき、実際にどんなものが混ざっているのかを詳しく見ていった。

最後に、実際に土の中にいる微生物や小さな生き物を顕微鏡で観察している動画を視聴し、絵を描いていった。トビムシやササラダニ、カニムシといった小さな生き物が動いている様子を見ることができ、加えて、堆肥を作っている生産者の顔も見ることができた。

いただいた堆肥を使って、今後改めて野菜を育て収穫を体験していく。

- ・ 活動のために準備した素材や道具、環境の設定
(活動のためにどのような環境を設定したか、準備した素材や道具)
- ・ 活動中の子供の姿・声、子供同士や教諭との関わり等を記載ください。
(活動の内容、活動中見られた子どもの姿、教諭との関わり等)

活動におけるチェックリスト	
グループ単位での活動等により、乳幼児同士の対話、関わりを促す。	☐
活動中の乳幼児の言葉、表情、ジェスチャー等の表現に着目し、メモ・写真・映像等で記録する。	☐
乳幼児一人ひとりが主体的に活動できるよう配慮した声掛け等を行う。	☐
記録をもとに、乳幼児の関心や発見、表現を振り返る。	☐
幼稚園・保育所等の各施設の教諭数値・保育者所同士や保護者等に、探究活動の内容を共有する。	☐
次の探究活動の更なる充実に向け、新たな問いや環境の構成を考える。	☐

活動の様子が分かる写真2枚以上を貼付してください。

(HPなどで公開する可能性がありますので、公開可能なものを使用ください。)



3. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>	
今回の活動は、目には見えない世界を可視化したもので子どもにとって少々難しい内容だったかもしれないことが子どもたちの描画から見て取れた。「100億匹」＝「世界中に住む人間の数より多い」というのも子どもにはイメージしづらい内容にはなってくるかなと感じた。 しかし、土にも様々な種類があることやそこに住んでいる生物がいるということ、堆肥を作る「人」がいるということを子どもが気付くきっかけにはなったのではないかなと思う。クイズを出すタイミングや映像を見てからの描画など、1つのつながりを持った活動を企画していただけてありがたかった。	

4. 今月の購入実績

注文日	項目	費用（税込）	購入方法
2025.08/.19	堆肥に触れる（体験）	22,000	ベジリンク
		22,000	

記入日：	2025.08.20
記入者：	齋藤ふたば